法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-01-30

【図書紹介】『美学講義』Ｇ・Ｗ・Ｆ・ヘーゲル著、寄川条路監訳、石川伊織、小川真人、瀧本有香訳、法政大学出版局、二〇一七年

KATAYAMA, Yoshihiro / 片山, 善博

(出版者 / Publisher)
法政哲学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
HOSEI TETSUGAKU : BULLETIN OF HOSEI SOCIETY FOR PHILOSOPHY / 法政哲学
(巻 / Volume)
15
(開始ページ / Start Page)
69
(終了ページ / End Page)
69
(発行年 / Year)
2019-03-30

【図書紹介】

『美学講義』

G・W・F・ヘーゲル著、寄川条路監訳、石川伊織、小川真人、瀧本有香訳、法政大学出版局、二〇一七年

片山　善博

これまで出版されたヘーゲルの『美学』は、難解なヘーゲル哲学への入り口として、あるいは西洋の芸術作品へのするどい批評として、あるいは西洋芸術史のみごとな体系として、読むことができるし、またそのように読まれてきた。講義をもとにしたものであるため、確かに読みやすいし何よりも面白い。ただし、この本には大きな欠陥がある。編集者ホトーが、ヘーゲルの講義ノート（現在は失われている）、自身の筆記録、他の年代の講義録などをもとに、自由に加筆・修正をしてしまったためである。そのことによりヘーゲルの各年度の講義の独自性が損なわれてしまった。ヘーゲルは、ハイデルベルク時代に一度、ベルリンに移って四度（一八二〇／二一年の冬学期、一八二三年の夏学期、一八二六年の夏学期、そして一八二八／二九年の冬学期）、「美学」あるいは「芸術哲学」に関する講義を行っている。ベルリン時代で見ると、最初の三学期の講義では、二部（「一般部門」と「特殊部門」）で組み立てられているが、最後の学期のものは三部構成に変更されている。また諸芸術の位置づけの仕方も、ホトー編集の『美学』では、「建築」「彫刻」「ロマン芸術」と分けられ、ロマン芸術が「絵画」「音楽」「文学」とされているのに対し、一八二〇／二一年の講義録では「造形芸術」「音楽」「語り」に分けられ、「造形芸術」に「建築」「彫刻」「絵画」が組み入れられている。しかし一八二六年の講義ではそれぞれが独立している。このように構成も講義ごとに変更されている。

今回、翻訳されたものは、一八二〇／二一年の冬学期のもので、アッシュベルクの筆記録をヘルムート・シュナイダーが編集したものである。この翻訳によって、ヘーゲル美学への印象も大きく変わるのではないか。ホトー編集の『美学』に比して中身も展開もすっきりしている。講義では個々の作品は、ホトー編集の『美学』にみられるような体系的な視点から批評するのではなく、その作品がどのようにそれぞれの時代を生きる人間の精神を表現してきたのかという視点から考察される。現在、ドイツでヘーゲル全集の編集が進められているが、漸く全貌が明らかになりつつある美学講義はこれから大いに研究が進められることになる。その上でも本書は必読書である。注釈も充実しておりぜひ本書に触れていただきたい。